

蓮花湧鶯蜂。

玉蕊疑見照東方。宸藻雙掛日月光。仙梵度來鳴鳳曲。天花飄落使臣裳。

右竊次藤相公紀行韻

白石

一、天爵堂小集賦紅梅。

二月紅梅鶯鶯。何年移種在君家。珊瑚枝上臘脂雪。正是江南第一花。

又依前韻卒賦呈主人

把酒高樓對落霞。由來嘉樹大夫家。春風新試文章手。織出秦川錦字花。

奉謝鳩巢先生賜高知

鳩巢

柳邊梅樓映雁斜。夜靜香風動月華。主客與爾皆欲醉。酒罇添得一枝花。

和鶴樓爾韻

鳩巢

月到欄前疎影斜。今宵留賞惜年華。似是春風勸君飲。先吹醉老上梅花。

一、壯士不病瘧

後漢書五十二。景丹傳分注。光武笑謂丹曰。聞壯士不病瘧。

今漢大將軍反病瘧邪。使小黃門扶起賜醫藥。

一、井上通女の詩歌

書懷

讚州 井上氏 通

若無吟咏述情志。今古因何思可移。誰謂弄文非我事。二南半是婦人詩。

述懷

徒らに身こそ朽木の杣人とそのふみそめし跡はたがはじ
胡蝶の夢のうちには、足もやすめず行きかふものから、
さむれば千里をへだつる古郷をおもひやりて、左氏傳
にいへる齊楚の道の遠きほどもがな
放ちたる駒もかよはぬふるさに行ては歸る春の夜の夢

一、葛卷昌興舊宅に題する詩

元祿六年甲戌或春。人賦一詩。題葛卷昌興舊宅云。山内某詩云。

可憐忠憤成閑事。佩蕙結蘭吟北溟。今夜偶經舊樓地。寒梅

映月照池亭。

一、願命その他の出典

願命。道二字。用士庶事。見後漢書六十九趙咨傳。曰。子胤不忍父體與土並合。欲更改殯。祇建營以願命。于是

奉行。八十二卷崔瑗傳曰。願命子寔曰。夫人慕天地之氣以生云々。三國志十四劉曄傳。曄拜謝曰。亡母願命之言云々。

私諡。後漢朱穆父卒。穆與諸儒考依古義。諡曰貞宜先生。及穆卒。蔡邕復與門人共述其體行。諡爲文忠先生。荀爽聞而非之。故張璠論曰。夫諡者上之所贈。非下之所造。故顏闔至德不聞有諡。薛嘉私諡甚無謂。情爲恩使。命緣義輕。此語朱穆傳の論に出。

令問。風賦令問。文苑傳高彪云。承服

三國志十一卷。邴原語曰。吾聞國危不事家宰。君老不奉世子。魏人

一、葛卷昌興の歌

吾妻にてこの秋になんぐたり侍らんといひおこしたり
ければ、よみてつかはしける 昌興

月見むと思ふのみかは待わぶる越路の君も秋ごさらめや
一、紫野芳春院芳春夫人御自畫達磨之御贊
をしへ置その言の葉をしるべにて心の奥を尋ねしらはや

過し來し六十あまりの春の夢さめての後は嵐ふくなり

肖像。後芳春院花岩景照。

丈夫面目意氣凜然。摩尼在手納衣掛肩。瞞却月上壓倒華鮮。龜齡鶴算億萬斯年。

慶長十四己酉稔仲夏下浣。春屋宗園書。八十一歳

奥に芳春夫人御自贊自書二首。

くもりなき秋のみ空の月影を心の水にうつしてぞ見る
なき跡のかたみまでとや残すらん六十餘の春の面影

御發句一首

夕霧や秋のちくさの花くもり

一、鶴

本草綱目卷四十八。白鶴肉。預解痘毒。每至除疫。以白鶴之肉
則出痘。同卵預解痘毒。小兒食之。永不出痘。或謂亦種。用白鶴卵一對。
種少。九。煮豆大。每服三十丸。
三五丸。煮豆大。每服三十丸。

一、朱子調息箴

鼻端有白。我其觀之。隨時隨處。客與狗移。靜極而嘘。如
春沼魚。動極而翕。如百蟲蟄。氣無開闢。其妙無窮。孰其尸
之。不宰之功。雲臥天行。非予敢讓。守一處和。千二百歲